古代史散策

No. ０６２

河内飛鳥①

王陵の谷

パナソニック電工松寿会
古代史散策部

平成 5年 5月作成
平成16年 4月復刻
平成29年 6月３刻

《コース》　７ｋｍ

近鉄上の太子駅 一妙見寺 一 孝徳天皇陵 一
竹内　街道 歴史資料館 一二子塚古墳－推古天皇陵一
用明天皇陵 一 聖徳太子御廟・叡福寺太子バス停･･・解散
※近鉄上ノ太子駅へ徒歩釣 20 分

《総　説》

【河内飛鳥】

聖徳太子と云えば普通、大和の法隆寺を連想する。

しかし、実はここ大阪府南河内郡太子町の叡福寺境内の太子廟に眠っているのである。

大阪で最も早く文化が開けたのは、南河内郡北部にあたる石川・大和川の合流点付近で、その西辺には、旧石器時代から縄文・弥生時代を経て古墳時代に至る、国府・船橋などの遺跡が見られる。

いわゆる摂河泉の地域は、5～6 世紀に大和盆地と並んで大和朝廷の重要な地盤となっていたが、この時期に中国大陸・朝鮮半島から、難波津を門戸として高度の文化を持った帰化人が次々とやってきて、難波津を取り巻く摂河泉に多く居住した。この辺りは、難波と大和飛鳥を結ぶ丹比（たんひ）道（飛鳥道）の周辺地帯として、大陸系先進文化の導入路として大きな役割を果たした。

全国で飛鳥と呼ばれる地名は、15 ケ所ほど残っているが、その中でも特に有名なのが大和飛鳥と河内飛鳥のいわゆる『二つの飛鳥』である。大和の飛鳥は明日香村として全国に知られ史跡巡りのメッカとなっている。これに対して河内飛

鳥は都が設けられず、蘇我氏宗本家の本拠地でもなく、古代文化の導入路的な役割であったので、大和に比べて知名度は低い。しかし、河内の渡来氏族の集任地域でもあって、古代朝鮮語の「アンスク（渡り鳥の安住の地）」から転訛した「アスカ」または「アスカベ」と称されてきた。

5 世紀の前半、中部朝鮮の楽浪郡から渡来して誉田の地に土着した、当宗氏と関係の深い河内の狛村（後の駒が谷）や、21 雄略朝（5 世紀後半）に南朝鮮の百済から、河内飛鳥の地（羽曳野市飛鳥）に渡来し、土着したと伝えられる「混伎王」の一族が、朝廷の吏官として仕えて飛鳥戸造を称え、河内の古代文化の発展に大きな貢献を果たしたことは、古記録でも知られている。

河内の飛鳥戸は、北は大和川、東は二上山系の山地、西は石川、南は河内飛鳥川に囲まれた地域で、住民の大半は前述の渡来人であった。旧安宿郡である。

大和の飛鳥を併せてこの新知識人を統べるのは蘇我氏であった。大和の豪族だが、先祖はこの辺り石川に居たとも云う。開明派で大陸の文物を取り入れ、欽明 13 年（552）百済から仏像と経典が伝来したときもいち早く受け入れ、これに立ちはだかった保守系の物部氏と対決し、河内の渋川（現八尾市渋川）で物部守屋と戦うが、その陣中に居たのが、父方も母方も祖母が蘇我氏出自の厩戸皇子（後の聖徳太子）である。この戦いで皇子は、四天王の像を木で彫り頭に戴いて「もし戦いに勝てば、四天王のために寺塔を建てる」と仏に念じた。戦いは蘇我氏が勝ち物部氏は滅亡した。太子の大願で摂津の荒陵に建立されたのが今の四天王寺である。

大化の改新（645）以後は「飛鳥戸郡」となり、43 元明天尾皇の和同 6 年（713）の和同令により「安宿郡」に改められ、明治 22 年まで継承されたのである。

≪旧安宿郡の郷名と現集落≫

賀美郷（上）	飛鳥（大阪の山口）・社本	飛鳥・駒が谷
那賀郷（中）	尾張・玉手	円明・玉手
資母郷（下）	国分・田辺	国分・玉手

【竹内街道（旧大坂道）】

古代の丹比道であるとされ、飛鳥道とも呼ばれる。5 世紀頃から、堺の百舌鳥（三国が丘）仁徳陵を起点に、ほぼ真東に進み、埴生坂を越えて羽曳野市古市に通じる丹比道と、石川を渡って駒が谷から河内飛鳥を通り、竹内峠を越えて大和飛鳥に至る大坂道を、33 推古天皇の 21 年（613）に拡幅整備したもので、日本書紀に「難波より京（豊浦）に至る迄大道を置く」と記されている、難波と飛鳥京を結ぶわが国最古の官道である。※８頁参照　飛鳥時代には、大陸文化伝来のルートとして栄え、さらに江戸時代になって、堺と大和を結ぶ『竹内街道』として再生され、枢要の街道であった。

今も街道沿いに『大道』の地名が残っている。

《 各　　説 》

【妙見寺】　　太子町春日

十一面観世音菩薩を本尊とする曹洞宗の寺院で、俗に「妙見さん」と呼ばれている。(山号は天白山)

推古天皇 6 年（598）蘇我馬子の創建になり、往時は巨刹であったが、南北朝の兵火にあって荒廃し、正保 2 年（1645）僧浄悦が中興し現在の宗旨になった。

盤根太子作と伝えられる妙見菩薩像が、寺宝として所蔵されている。

【36 孝徳天皇陵】　　太子町山田

大阪磯長陵（おおさかしながりょう）と呼ばれる直径 32m の円墳である。

孝徳天皇は 35 皇極女帝の弟で、大化の改新の後、姉を次いで 52 才で皇位につき大化と改元した（645）。皇后は皇極女帝の娘で中大兄皇子の同母妹の間人（はしひと）皇女。

人心の一新を図るため都を難波長柄の豊碕に遷した。名柄豊碕宮（ながらとよさきぐう）ある。(その場所は最近の発掘調査により大阪市北区豊崎ではなく、今の難波宮跡であることが判明した)

しかし政治を取り仕切ったのは、中大兄皇太子で、大化 2 年、大化改新の詔勅がここから下され、律令（りつりょう）政治が始まったのである。

白雉 5 年（654）天皇崩御。皇極女帝が重祚されて 37 齋明。中大兄はその後を継いで即位。38 天智帝となった。

【竹内街道歴史資料館】　　太子町山田

平成 5 年にオープンした太子町立資料館で、映像と模型を組合せた「マジックビジョン」や展示品で、竹内街道の変遷を辿る。

石器や石棺の材料を求めて人々が歩いた道、大陸文化を伝えた飛鳥時代の『大道』、聖徳太子信仰の道、西国巡礼・伊勢詣りや商業といった江戸時代の庶民のパワーに支えられた道と、街道が果たしてきた役割が判る。

その他、太子町の考古・民俗資料も展示されている。

【二子塚古墳】　　太子町山田

一辺 25m の方形墳が東北一西南と連接する珍しい形の古墳。全長約 60m、高さは東丘 4・7m, 西丘 6m で、両墳ともほぼ同規模の横穴式石室と家型石棺をもち、西丘は埋め戻されているが、東丘は削られて石室が露出しており、いずれも南東に弐弐弐開口している。地元には二子塚こそ真の推古帝と竹田皇子の合葬陵との伝えもある。

【33 推古天皇陵】　　太子町山田

磯長山田陵（しながやまだ）と呼ばれる一辺 58m の段造方形墳である。

天皇は、わが国最初の女帝で御名は豊御食炊屋姫（とよみかしきや）。

29 欽明天皇の第 3 皇女。母は蘇我稲日の娘堅塩媛（きたし）。30 敏達天皇の皇后となった。32 崇峻天皇が蘇我馬子に弐された後、大和豊浦宮（やまととゆらのみや）に即位し、甥の聖徳太子を皇太子・摂政として政治を行い、飛鳥時代と呼ばれる一時代を画した。後、小墾田宮（おはりだのみや）に遷都。推古 36 年（628）崩御

【31 用明天皇陵】　　太子町春日

磯長原陵（しながはら）と呼ばれる、東南 65m 南北 55m 高さ 10m、周囲に幅 6m の濠を巡らせた、2 段造の南面している御陵で、隋や高句麗の帝王陵築造の影響を受けた、天皇陵としては最初の方形墳である。

天皇は、欽明天皇の第 4 皇子で、母は推古天皇と同じく堅塩媛。皇后は穴穂部間人（あなほべのはしひと）皇女。聖徳太子の父君である。

大和磐余池辺雙槻宮（やまといわれいけのへのなみつきのきみや）に遷都。

用明 2 年（587）崩御。（在位 2 年、没年 68 才）

【聖徳太子磯長（しなが）御廟・叡福寺】　　太子町太子

推古 27 年（619）御自ら横穴式石室の墓所を造営された直径約 50m の巨大な円墳で、周囲は、上段は弘法大師が弘亡年間（810－24）に、下段は寛保年間（1741－44）の築造と伝えられている二重の結界石で保護されている。

翌 28 年母の穴穂部間人皇后をこの墓に葬られ、同 30 年（622）2 月太子と妃が時を同じくして斑鳩宮で没され、遺命によって同じ墓所に葬られた。母皇后を中央に、その東に太子を、西に妃の膳部菩岐々美耶女（かしわでのぼききのいらつめ）の嗣を配してあり、「三骨一廟」となった。

◎ 叡　福　寺

推古女帝が太子廟を守護し、追福するために、香華所として坊舎を建立されたのが当寺の起源で、石川寺・御廟寺・磯長（しなが）寺と称されていた。神亀元年（724）45 聖武天皇の直願により、

法隆寺を模して東西に伽藍を建立、東を転法輪寺、西を叡福寺と称したと伝えられている。弘仁年間には弘法大師が参龍、また日蓮上人・親盤上人も参籠し、歴代天皇の厚い崇敬をうけた。

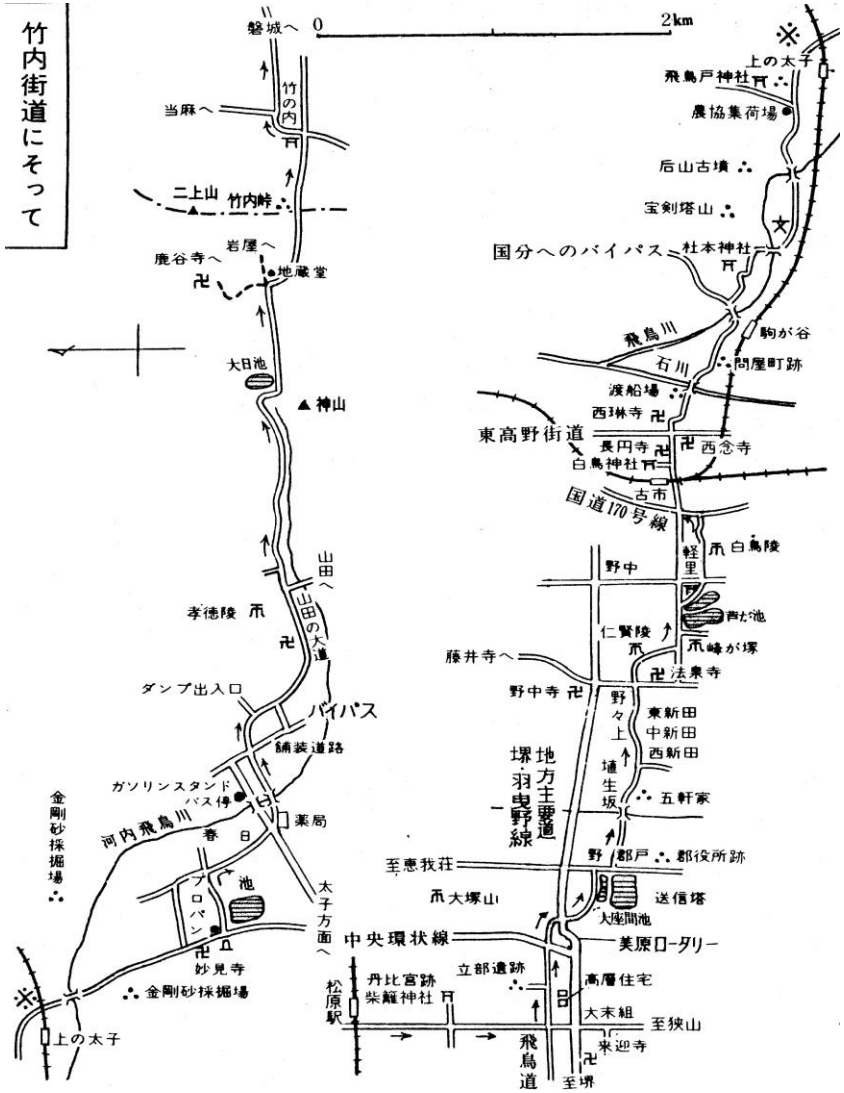
現在の建物は、いずれも江戸以降のもので、豊臣秀頼が慶長 8 年に再興して国の文化財に指定されている聖霊搬（本堂）やこれも重文の多宝塔をはじめ、浄土堂・金堂・上の御堂・大師堂など十数棟が甍を並べている。

聖徳太子ゆかりの寺で、羽曳野市の野中寺を「中の太子」八尾市の大聖勝軍寺を「下の太子」と呼ぶのに対し叡福寺は「上の太子」と呼ばれている。

＊近鉄線の駅名「上の太子」はこれに由来する。

作成・復刻　末岐敏一

案内・解説　山本信二・河内正明


竹内街道にそって
0
2km
磐城へ
竹の内
当麻へ
二上山
竹内峠
岩屋へ
鹿谷寺へ
地蔵堂
大日池
神山
山田へ
山田の大道
孝徳陵
ダンプ出入口
バイパス
舗装道路
ガソリンスタンド
バス停
河内飛鳥川
薬局
春日
プロパン
池
太子方面へ
金剛砂採掘場
妙見寺
金剛砂採掘場
上の太子
上の太子
飛鳥戸神社
農協集荷場
后山古墳
宝剣塔山
国分へのバイパス
杜本神社
飛鳥川
駒が谷
石川
間屋町跡
渡船場
西琳寺
東高野街道
長円寺
西念寺
白鳥神社
古市
国道170号線
軽里
白鳥陵
野中
西ため池
仁賢陵
峰が塚
藤井寺へ
法泉寺
野中寺
野々上
東新田
中新田
西新田
埴生坂
五軒家
地方主要道
堺・羽曳野線
至恵我荘
野
郡戸
郡役所跡
大塚山
送信塔
大座間池
中央環状線
美原ロータリー
立部遺跡
高層住宅
丹比宮跡
柴籬神社
松原駅
大末組
至狭山
来迎寺
飛鳥道
至堺

≪　メモ　≫